



2020年の木材輸入実績について

昨年、我が国の木材輸入は、年初からのコロナ禍により、大きな影響を受けました。本稿では、2020年における世界の木材の需要動向を概観した上で、品目別の輸入実績を報告します。

1. 世界の動向

2020年は、年初からのコロナ禍により、各国で生産活動が停滞しました。その後、中国で経済活動がいち早く再開し、夏以降は、欧米で「巣ごもり需要」が拡大したことにより、中国から欧米向けの貨物が急増しました。その後、コロナによる欧米でのコンテナ滞留とアジア圏でのコンテナ不足が発生し、海上運賃が大幅に上昇しました。

米国では、自宅待機要請により、住宅の改築・改修や新設の着工が大幅に増加しました。これに伴い、7月以降は木材価格が急激に上昇し、年末には歴史的な水準まで高騰しました。

欧州では、経済活動の再開後、堅調な建築市場とDIY需要の増加により、域内の木材需要が回復しました。米国での木材需要の高まりに伴い、米国への輸出も増加しました。

一方、東南アジアでは、移動制限による労働力不足と悪天候により、合板等の生産が停滞しました。

2. 2020年の木材輸入実績

(1) 木材輸入額

我が国の2020年の木材輸入額(HS44類)は、前年比19%減の9,436億円でした。輸入額が1兆円を下回ったのは、2012年以来的のことです。輸入先国別では、EUは前年比8%減、中国は同13%減、ベトナムは同9%減など、主要な輸入先国は軒並み減少しました。EUは、中国に代わって、木材輸入額で第一位となりました(図1)。

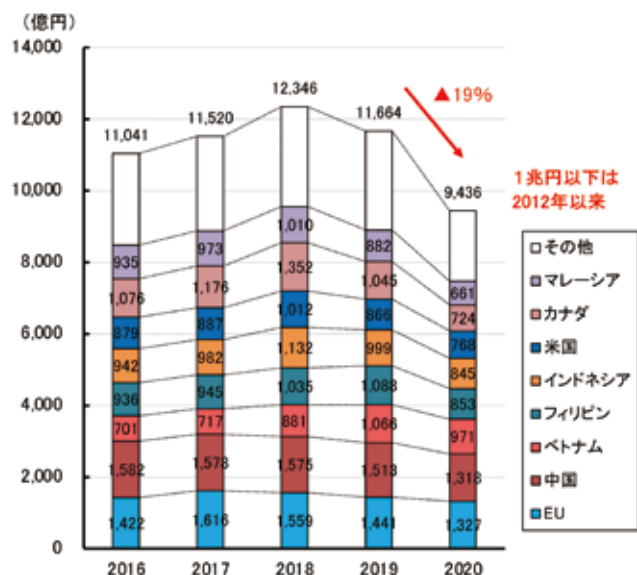


図1：木材輸入額の推移

(2) 丸太輸入

我が国の2020年の丸太輸入量は、前年比24%減の230万m³でした。

米国(シェア69%)からは、同4%増の158万m³でした。後述の通り、カナダからの丸太の輸入量が大幅に減少したため、米国に代替需要が発生しました。

ニュージーランド(同12%)からは、同20%減の28万m³でした。経済活動の再開後、中国向け輸出にシフトし、日本への供給が減少しました。

カナダ(同12%)からは、同68%減の27万m³でした。カナダの最大手丸太輸出業者が、経営戦略の観点から一時的に自社所有林の伐採を停止したため、輸入量が激減しました(図2)。

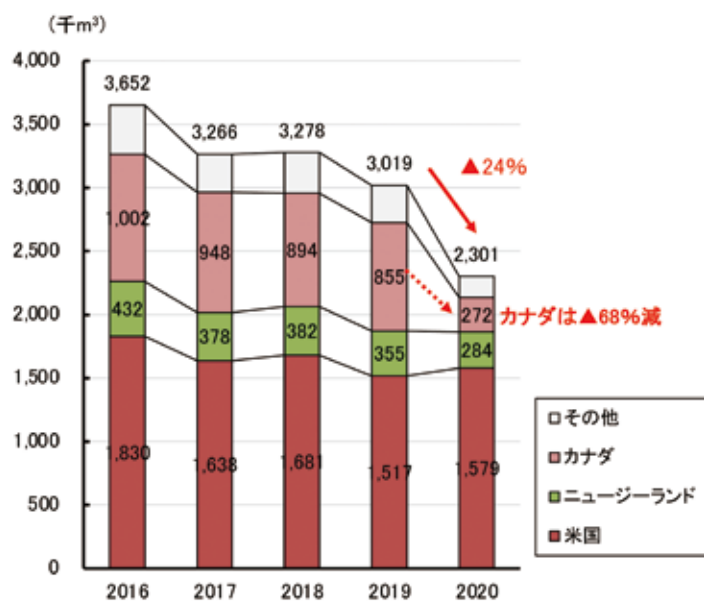


図2：丸太輸入量の推移

資料：「貿易統計」

(3) 製材

我が国の2020年の製材輸入量は、前年比13%減の493万 m^3 でした。

EU(シェア47%)からは、同8%減の234万 m^3 でした。経済活動の再開後、欧州域内の需要が回復するとともに、北米への輸出も増加したことから、日本への供給が減少しました(図3)。

(4) 合板

我が国の2020年の合板輸入量は、前年比13%減の16.6万 m^3 でした。

マレーシア(シェア42%)からは、前年比18%減の70.4万 m^3 でした。コロナ禍による入国制限で、インドネシアからの労働者確保が困難となり、工

場での生産が停滞しました。悪天候による原木の出材不足、コンテナ不足による運賃上昇も影響しました。

インドネシア(同42%)からも、同様の理由で、前年比9%減となりました(図4)。

(5) 集成材

我が国の2020年の集成材輸入量は、前年比5%増の102万 m^3 でした。東京オリンピックに伴う物流の停滞・混乱を見越して、夏頃まで輸入が増加しましたが、10月以降は、欧米市場の回復により減少しました。

EU(シェア82%)からは、前年比9%増の83.5万 m^3 でした。輸入増加により、木造住宅の横架材で競合

する米マツ製材からの代替が進展しました(図5)。

3. おわりに

2020年の我が国の木材輸入は、コロナ禍により大きな影響を受けました。2021年に入ってから、北米を中心とする木材価格の高騰や海上運賃の上昇により、集成材を含め、木材輸入の減少傾向が続いています。

今後も、木材の輸入動向に関する情報を積極的に提供してまいります。

なお、毎月の木材輸入実績は、翌々月の下旬に林野庁ウェブサイトに掲載しておりますので、ご活用ください。
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/boutai/yunyuu/boueki.html>

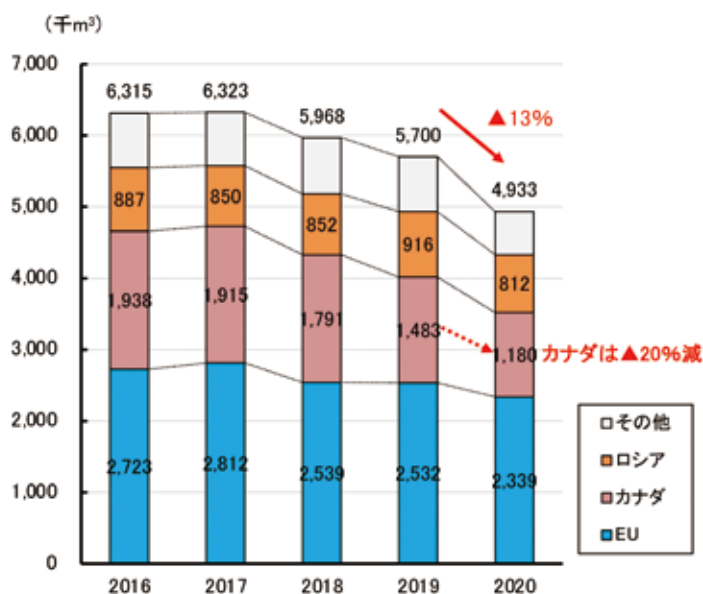
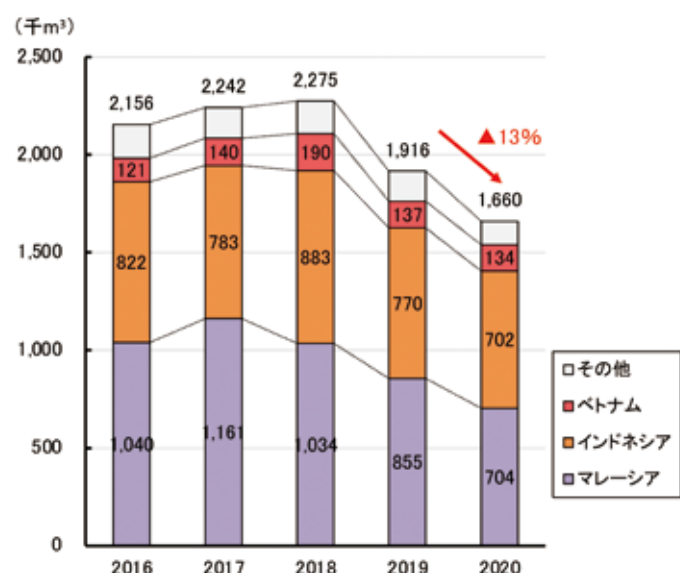


図3: 製材輸入量の推移



資料:「貿易統計」

図4: 合板輸入量の推移

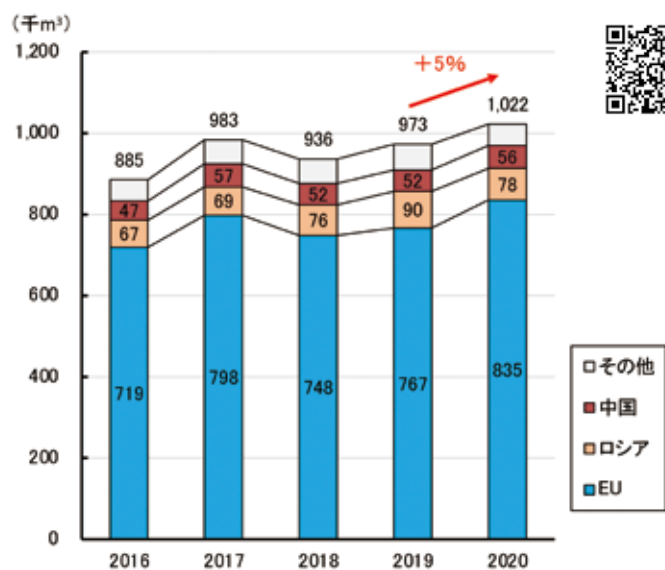


図5: 集成材輸入量の推移